

# なら歴史芸術文化村 Journal

## Topics

3  
vol.



- 開村1周年ごあいさつ
- 連携～若い力と一緒に!!
- 歴史文化～五感で感じて
- 芸術文化～すべての人に生きる力を
- にぎわいづくり～地域とともに
- 開村1周年記念事業の案内



撮影／クリエイティブデュオ「TOCHKA」

# ごあいさつ

2022年3月21日に開村しました「なら歴史芸術文化村」は、この度、開村1周年を迎えます。

当施設に関わっていただいた皆様、そして当施設にお越しいただきました多くの方々、心より感謝申し上げます。

なら歴史芸術文化村は、歴史文化資源の継承及び活用と芸術文化活動振興の拠点施設として、また、食や産業など奥深い奈良の魅力を通して交流や賑わいを創出する地域振興施設として、「なぜ？」が芽生える。「知る」を楽しむ。」をテーマに、対話・体験を重視した活動を行っています。

開村1周年を機に、さらに多くの方に当施設の取り組みを知っていただきたく、皆様のご来村を心よりお待ちしております。

なら歴史芸術文化村



「なぜ？」が芽生える。  
「知る」を楽しむ。

## なら歴史芸術文化村の活動理念

- 対話を重視した双方向のプログラムにより、来村者との交流を重視した取組みを展開し、一人ひとりの感性や知識、関心に寄り添い、自発的な学びを支えます。
- 文化村近傍だけにとどまらず、山の辺の道等、関連する地域を一体としてとらえた地域振興策等を展開します。
- 文化村における取組みの質の向上のため、多種多様な分野の人脈を構築します。

## なら歴史芸術文化村の3つのこだわり

- 1 文化村でつながる、文化村から広がる  
～地域の魅力を歴史や芸術とつなげて広く発信～
- 2 来村者にやさしい文化村で、楽しい体験  
～サービスデザイン思考によるプログラムの実施～
- 3 文化村でみんなが学ぶ  
～来村者だけではなく、関係者全員が学べる～

# 連携～若い力と一緒に!!

昨春の開村以来、特色ある取り組みを展開してきた、なら歴史芸術文化村（以下、文化村）。すべての事業がつつながって、みんなの感性をひらいていく文化村の活動をあえて4分野に分けて、この1年を振り返ってみました。

## 学生サポーター

文化財修復・展示棟では天理大学の学生が学生サポーターとして活動しています。学生サポーターは来村者の対応や解説ツアー、ワークショップの補助など幅広い役割を担うボランティアスタッフ。参加学生からは「国宝や重要文化財の修復作業が行なわれている間近で活動できるのは、とても貴重な経験」「来村者や文化村スタッフなど色々な立場、年代の方々とのふれあいが楽しく、今後にも役立つと思う」などの感想が聞かれます。

天理大学は文化村から1キロ圏内と非常に近い立地。学生サポーターは昨年3月21日の開村式でも来村者の案内や誘導に携わり、地域の魅力を歴史や芸術とつなげて発信する文化村を誕生時から支えています。



受付で来村者に対応する学生サポーター（左）

## アートコミュニケーター

文化財修復・展示棟ではまた、県内唯一の芸術系大学である奈良芸術短期大学の学生がアートコミュニケーター（AC）として活動。ワークショップの企画運営や鑑賞者との対話による作品鑑賞などアーティストや作品と鑑賞者をつなぐ担い手として活躍しています。

ACはアーティストに制作についての思いを聞くなど熱心な事前準備をして活動にのぞみますが、その役割は単なる作品解説ではなく来村者と共に作品の面白さを発見すること。鑑賞者に好きな作品を投票してもらい、選んだ理由を語り合うなどACの活動が深まるにつれ、じっくりと作品を観る来村者が増えています。



来村者とコミュニケーションを図りながら作品鑑賞する学生アートコミュニケーター

## 連携4大学と共に

文化村は文化財の調査研究、保存や活用など次世代を担う取り組みを協同で実施しようと天理大学、奈良県立大学、立命館大学アート・リサーチセンター、東京藝術大学の4大学と連携協定を結んでいます。

昨年夏には文化村と連携4大学の共催で第2回企画展「文化財研究中！なら歴史芸術文化村×連携4大学」を開催しました。各大学の特徴的な研究実践や最新研究事例、文化村と協同で進めてきた取り組みの成果を模型や映像などを通して分かりやすく紹介。関連イベントのひとつとして各大学の教員による座談会も行なわれました。



文化村と連携協定を締結している4大学の教員によるトークイベント

## 新たな可能性を追求

文化村では近畿大学と連携した幼児向け料理教室で子どもの自己肯定感や自尊感情を育てる取り組みや、産学官連携の実行委員会で開催した親子対象の伝統文化体験事業など多彩な事業を展開。天理青年会議所の社会貢献活動や地元社寺の企画に加わるなど、既存の枠にとらわれない多様な主体との連携を広げています。



産学官連携で実施した伝統文化親子体験事業

# 歴史文化～五感で感じて

## 文化財の修理を見学

### ●文化財修復・展示棟では

日本初の試みとして、文化財4分野（仏像等彫刻、絵画・書跡等、歴史的建造物、考古遺物）の修復工房を毎年公開。文化財が修理技術者によって修理されていく様子を見学することで、多くの来村者が文化財への興味・関心を深めています。

パネルや映像による解説に加え、それぞれの工房で行なわれている修理作業の内容やその過程の中で分かったことなどを学芸員が解説する修復工房見学ツアーを毎日実施。参加者からは「丁寧に分かりやすい説明だった」「また参加したい」との声が数多く寄せられています。参加者からの質問が学芸員の新たな気づきにつながることもあり、文化村のこだわりのひとつである「来村者だけでなく、関係者全員が学ぶ」を日々、実践しています。



修復工房見学ツアー

## 成果の展示

文化財修復・展示棟地下1階の展示室では開村記念特別展「やまのべの文化財—未来に伝える、わたしたちの至宝」に始まり、第1回企画展「観音のいます地 三輪と初瀬」（令和4年4月29日～6月19日）、第2回企画展「文化財研究中！なら歴史芸術文化村×連携4大学」（令和4年7月23日～9月19日）など、5つの展覧会を開催してきました。

特集展示「奈良県指定の文化財」（令和4年10月22日～12月11日）では、文化村で修理が完了した東南院（吉野町）の大日如来坐像や十輪院（奈良市）の多宝塔、令和3年度に新たに奈良県指定文化財となったものなど名品の数々を紹介。文化財の展示に加え、修理の様子を収めた映像やパネルによる解説を通して多くの来村者が文化財修理の意義を実感し、貴重な文化財をいかにして未来に守り伝えていくか、という新たな気づきにつながりました。

会期中、修理技術者による講演会があり、公益財団法人美術院常務理事の陰山修さんが講演。参加者からは「実際に文化財に触れる技術者の生の声を聞くことができ良かった」との意見が多数寄せられました。

また、11月11日には初の試みとして、午後6時30分から午後8時まで学芸員と対話しながらゆっくり鑑賞するナイトミュージアムを開催。「開館時間外に見学する特別感があり、学芸員とゆっくり対話できた」と好評を博しました。



修理技術者による講演会

## 充実のワークショップ

文化財修復・展示棟の各工房では考古遺物ワークショップや建造物修理体験イベントなど、体験を通して新しい視点や理解を深めることを目的としたワークショップが活発に開催され、多くの参加者でにぎわっています。

第1回企画展の関連イベントとして子ども仏像講座も開催。聖林寺（桜井市）の十一面観音菩薩像（国宝）光背の3Dレプリカを用い拓本をとるワークショップに参加した子どもたちから「仏像が身近になった」との感想が寄せられるなど、次世代と歴史を結ぶ取り組みも順調。

文化村はこれからも奈良の歴史を五感で感じ、対話や体験を通して新しいことを知る楽しさへとつなげる企画を、さらに充実させていきます。



左官体験



拓本ワークショップ

# 芸術文化～すべての人に生きる力を

## 特色あるアートプログラム

芸術文化体験棟ではアート体験を通して、一人ひとりの発想と個性を尊重する幼児向けアートプログラムを実施。0～6歳の子どもたちが、個々の感性を生かした「遊び」を通じたアート体験を楽しんでいます。

決められたカリキュラムはなく、興味が一致した数人が集まって活動したり、一人ひとりが夢中になれることを後押しする教育実践を通じて子どもたちは「自分は大切にされている」と感じ、みんなに自尊感情が芽生えます。

「自己肯定感・自尊感情」「他者への寛容なところ」「健やかな身体」は、子どもの可能性を拓き「学ぶ力」「生きる力」の土台となる大切なもの。文化村ではレジジョ・エミリア・アプローチを参考に、「そざいきち」「てでかんがえる」などの幼児向けプログラム展開しています。



体験プログラム「そざいきち」で光と影のあそびを体験する子どもたち



連続プロジェクト「てでかんがえる」で粘土と向き合う子どもたち

## 広がるアート体験

「そざいきち」ではさまざまな素材や道具をつかって「いろ」作りを楽しんだり、「ひかりとかげ」の不思議に出会ったり。子どもたちは自由な発想、独自の感性でアートを楽しみました。

連続プロジェクトの「てでかんがえる」は、一つのテーマに全6回、手を動かしながらさまざまなことを考え、感じ取ることを大切にしています。

文化村では幼児向けアートプログラムを就学後に引き継ぐための接続プログラムとして、小学生向けワークショップ「アートであそぼ！」やトップアーティストによる「ヴァイオリン体験講座」などの実施をはじめ、子どもたちに伝統文化や地域の歴史についての理解の深まり、豊かな人間性を育む取り組みとして能楽や狂言をテーマに伝統芸能のワークショップを行ないました。

さらに、年齢や障がいの有無などにとらわれない誰もが参加できる取り組みとして、手話パフォーマンスやビジュアルアートを採用したワークショップを繰り返したりしています。



トップアーティストによるヴァイオリン体験講座の様子

## 進化を続けるアート発信

「本物にふれる」ことで「新たな視点・感性」が生まれる場を提供する文化村のアート発信は、子どもを対象にしたプログラムだけではなく。

トップアーティストとの交流事業では、国内外から招へいた著名アーティストによる優れた芸術作品に触れることができます。

公募でアーティストを招へいするアーティスト・イン・レジデンス事業では、アーティストが一定の期間、文化村に滞在し、作品の制作過程を一般に公開。地域の人と交流しながら、その地の魅力をアートで表現する創作活動と成果発表の機会を提供しています。

また、奈良ゆかりのアーティストに焦点をあてた取り組みでは、作品を展示するだけでなく、トークイベントやワークショップなどで積極的な対話型の交流を図ることで、アーティスト自身を県民に紹介しています。

さらに、先駆的な取り組みを行うアーティストと協働する文化村クリエイション事業では、アーティストと専門スタッフ（アートコーディネーター）が、作品の制作、展示のみならず、プロモーションも含めた多角的な視点から連携しています。

歴史文化と芸術文化が共存する文化村ならではの特性を活かし、歴史と芸術を融合させた展示企画に挑戦するなど、今後も新たな可能性の創出に取り組んでいきます。



作品制作のためのリサーチで地元住民の話を聞く美術家・黒田大スケ氏（左）

# にぎわいづくり～地域とともに

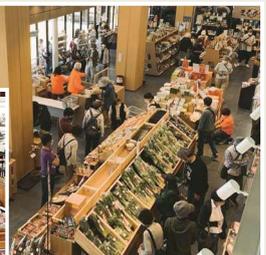
## 柿といちごが人気

交流にぎわい棟では奈良県産農産物や伝統工芸品を販売する直売所「文化村にぎわい市場」が営業。県内外から訪れる来村者に奈良県の食と農、伝統工芸の魅力を発信しています。

中でも一番人気は地元、天理市が誇る特産物でもある柿といちご。いずれも天理市周辺で収穫されたものを中心に販売しています。ちなみに天理市のいちご耕作面積は奈良県で一番の広さ。若い世代のいちご農家が新品種の栽培に意欲的に取り組むなど、年々パワーアップしています。



「天理のいちごフェア」開催中の直売所



県内外からの来村者でにぎわう農産物直売所

## 体験イベントで伝える

昨年は柿にまつわる企画を集めた「奈良の柿フェア」が開催され、様々なイベントが行なわれました。中でも人気を呼んだのが「渋柿の渋ぬき体験」。天理市で生まれた早生種の渋柿、刀根早生柿（とねわせがき）の渋をぬいて甘い柿にする作業を来村者が自分の手で行ない、柿を持ち帰りました。

他府県からの来村者など奈良県が柿の名産地と知らない人もあり、「富有柿（ふゆうがき）」の生産量は奈良県が全国1位、幻の柿とも呼ばれる希少な「御所柿（ごしょがき）」の発祥が御所市とされることなど、スタッフの解説に熱心に聞き入る姿が見られました。

今春は「天理のいちごフェア」を開催。奈良のブランドいちごの代表格である甘くてジューシーな「古都華」や新品種「奈乃華」など多彩な品種の販売に加え、いちごセミナーや料理教室などの企画を展開しました。

中でも注目を集めたのが「中華風餡入りいちご白玉」をつくる料理教室です。バラの香りの温かいシロップの中で出会う、刻んだいちごと白玉の相性は抜群。

これまでのいちごスイーツのイメージをがらりと変える新鮮なレシピが参加者の人気を集めました。



渋柿の渋ぬき体験の様子



いちごスイーツのイメージを変えた「中華風餡入りいちご白玉」

## 心を込めて伝える

伝統工芸品ショップでは赤膚焼や一刀彫、蚊帳ふきん、奈良団扇など県内の伝統工芸品と吉野杉や吉野椴の木工製品を販売しています。県下有数の品ぞろえにひかれ、遠方から何度も足を運ぶ来村者も増えています。

それぞれの製品のそばに解説文を掲示していますが、さらに詳しい情報を伝えてくれるのが販売スタッフ。「素材の木はどこに生えていて、どんな工程を経て製品になるのか」「どんな思いを込めて作られているのか」。納品時に製造者から直接、話を聞き、学んだことをスタッフノートに書いて全員で共有しているのは、製品の価値を一人でも多くの来村者に伝えたい、との思いからです。



吉野材の木工品などが並ぶ伝統工芸品ショップ

## 奈良ならではの学び

交流にぎわい棟では季節の農産物にちなんだフェアなどに加え、2階の実習室や多目的室を会場にセミナーやワークショップが定期的に開催されています。

吉野本葛を用いた葛切り体験や古代スイーツづくりなど、奈良ならではのテーマによる料理教室は月に一回程度の開催。「じっくり伝統工芸ワークショップ」と題した企画では「赤膚焼」「高山茶筍・奈良晒」「奈良筆・奈良墨」「吉野手漉き和紙・奈良表具」の4つの伝統工芸体験プログラムを実施し、それぞれの伝統工芸の担い手が製造工程の紹介や制作体験などを詳しく伝えました。

奈良県の食と農、伝統工芸の魅力の発信によるにぎわいが着実に広がっています。

開村一周年を迎え、これまでの活動で培ってきた、お客様の声や人脈、ネットワークなどをベースに「交流重視、楽しい体験、自発的学び、地域の魅力を歴史や芸術とつなぐ、多種多様な人脈の構築、にぎわいづくり」といったスローガンを掲げながら、活動理念やコンセプトを改めて体感してもらえるよう、多彩なイベントを開催。新たなステージに向けて飛躍を続ける文化村の催しにご期待ください。

※詳しくは、なら歴史芸術文化村ホームページでご確認ください。

芸術文化

3月18日(土)

**イベント**  
「ひらけ! 芸術のとびら ~天理シティオーケストラと一緒に音楽を楽しもう♪」**無料** (申込不要)  
13:00 ~ 幼児向けヴァイオリン体験後期講座発表会  
15:00 ~ 天理シティオーケストラキッズコンサート

3月21日(火・祝)から4月23日(日)

**松井紫朗 穴 時空をつなぐ回路** **無料** (一部有料)  
\*開村一周年記念展「山辺の道」との連携展示は5月28日(日)まで

**彫刻家松井紫朗氏** (現京都市立芸術大学教授) の作品展示  
歴史とアートがつながる / 山辺の道周辺地域とつながる / 過去と現在と未来をつなぐをコンセプトに文化村やその周辺地域 (石上神宮、内山永久寺跡、長岳寺、元興寺) での作品展示やアートイベントを開催



3月21日(火・祝)から4月16日(日)

**レベッカ・ソルター展** **無料**

美術家レベッカ・ソルター氏の初期作品と吉野産の宇陀紙を使用した新作を展示



3月21日(火・祝)から4月16日(日)

**そぞい あそび まなび展** **無料**

幼児向けアートプログラムでの1年間の取り組みを紹介、奈良っ子はぐくみ課との連携展示も実施



歴史文化

3月21日(火・祝)から5月28日(日)

開村一周年記念展「山辺の道」 **無料**

天理市及び隣接地域の文化財を紹介  
松井紫朗氏と連携した展示  
会期中は講演会等も開催



イベント

4月1日(土)

**開村1周年記念シンポジウム Vol.1** **無料** (事前申込)

対談 磯田道史 (歴史学者)、松井紫朗 (彫刻家)

4月8日(土)

**開村1周年記念シンポジウム Vol.2** **無料** (事前申込)

対談 建畠哲 (多摩美術大学学長)、レベッカ・ソルター (英国 ロイヤルアカデミー・オブ・アーツ学長)  
ファシリテーター / 太下義之 (同志社大学教授)

イベント

3月21日(火・祝)

「文化村の日」記念イベント **無料** (事前申込)

開村1周年祝賀「寿三番叟」  
対談 安藤栄作 (彫刻家)、勘禄 (人形浄瑠璃人形遣い)  
聞き手 / 倉橋みどり (俳人・編集者)  
音楽人形演劇「天と地の和解」 公開ワークショップ

4月22日(土)

**アニバーサリーライブ** **無料** (当日受付)

「ハルニサク・オト」 辻本美博 (サクソ奏者)

# なら歴史芸術文化村から時空を旅するお散歩マップ

**1 なら歴史芸術文化村** 2022年 開村

**2 内山永久寺跡** 1114年 創建

**3 石上神宮** 伝・紀元前91年 創祀

**4 天理教教会本部** 1839年 立教

**5 いちよう並木** 1974年 市の木に選定

**6 天理大学附属天理参考館** 1930年 創設

**7 天理大学附属天理図書館** 1925年 発足

**8 天理大学創設者記念館** 1924年 建設

**9 西乗鞍古墳** 5世紀末 築造

天理市役所、天理駅前広場、天理本通り商店街、Art-Space TARN、産業振興館、天理IC、天理東IC、天理駅、至奈良、至桜井、至茨木、至大板方面、至名古屋方面

山辺の道  
天理大学 袖之内キャンパス  
袖之内古墳群

さくらスポット  
いちようスポット  
お散歩ルート

境内に続く  
社木の毛むくむくと  
聞こえるらしい美しい  
「神楽」の音。  
いやされませう

近郊に「熊野」を  
襲いと豪傑天照が  
立ち寄ったと伝わり、  
足利義氏から  
遷れた天照の  
神宮の地に

巨大な建物は  
圧巻の木造建築。  
どこまでも続く回廊を歩めば  
あんなのがあつたか

さくら並木  
春は布田川沿いの  
サクラ、秋は  
新緑大木のイチヨウ並木。  
絶景スポットが  
いたるところに  
ある一帯です

日本建築の  
モダンな建築。  
洋風と和の木の気は、  
まるで戦前の世界のように

ひっそりとたたずむ  
穴瓦ロウの建築。  
工業化は建築設計デザインは  
中山匠輔氏の屋号を継承  
したもの

くもりと  
雲って空！時雨。  
桜花前からの現代まで、  
天理の魅力を満喫できる  
コースです

Time Travel City  
— TENRI —

## 直行デマンドシャトル 運行中

9:00~17:00 運行中

※ 7:00~9:00、17:00~20:00 は直行バスが運行します。

	7:23	7:58	8:33	17:48	18:21	18:59	19:30
天理駅発	7:23	7:58	8:33	17:48	18:21	18:59	19:30
文化村発	7:39	8:14	17:35	18:04	18:35	19:13	19:44

近鉄・JR天理駅 天理駅①番バスのりば発	⇔	なら歴史芸術文化村
運賃(片道)	直行バス デマンドシャトル	大人 260円、小児 130円 1人 300円

アプリ・直行デマンドシャトルに関するお問合せ

予約はアプリが便利！ダウンロードはこちらから▶

**mobi** mobi (モビ) カスタマーサポート  
Community Mobility ※9:00~19:00

**050-2018-0107**



### [開館時間]

**文化財修復・展示棟**

● 開館時間：9:00~17:00

- 休館日：月曜日 ※祝日の場合は、翌平日が休館  
※交流にぎわい棟は月曜日も営業  
※情報発信棟トイレを除き、12月30日~翌年1月3日は休館
- 入館料：無 料 ※催しにより有料の場合有り

**芸術文化体験棟**

● 開館時間：9:00~20:00

**交流にぎわい棟**

● 開館時間：9:00~18:00  
※レストランは9:00~20:00

**情報発信棟**

● 開館時間：9:00~17:00  
※トイレは24時間

## なら歴史芸術文化村

そまのうち  
〒632-0032 奈良県天理市袖之内町 437-3  
TEL 0743-86-4420(代表)

WEB <https://www3.pref.nara.jp/bunkamura/>  
※感染症対策にご協力ください。

